20210207レムナント教会1部

**救いの正体(神様の選び)（創世記12:1-3)**

　何が本当の問題なのかを聖書を通して正しく理解することは、人生の勝利の第一歩であり、とても大切なテーマです。なぜ人間は不安を抱えて生きるしかないのでしょうか。聖書には、その正体が全世界を惑わす古い蛇、悪魔、サタンだと明確に私たちに示しています。なぜ人間は不満を抱えて、それによって犯罪に走るようになるしかないのでしょうか。それに対してもヨハネ8：44で、最初から人殺しであり、偽りの父、悪魔、サタンだと明確に教えています。ですから、ただの修行によって不満の人生から自由になることはありえません。なぜわざわいが絶えないのでしょうか。その正体もただの自然現象ではなく、ネフィリム、上から落ちてきた者、悪魔、サタンがそのわざわいの正体だと聖書は証言しています。なぜ夢が破れ、人間の理想が崩れて崩壊し、また挫折を味わうしかないのでしょうか。それに対して聖書は、ヒューマニズムがその理由であり、ヒューマニズムは創世記3：5、あなたが神のようになるのだと誘っていたその悪魔、サタンの誘いなのだと証言しています。

何が本当の正体なのかが分かったときに、私たちは「イエスのほかには、キリストのほかには答えはありません」という結論にたどり着くようになります。神様はこのような様々な問題を通して、何が正体なのかを知らせることによって、私たち人間がイエスの方に、Onlyイエスになるように導いていらっしゃる配慮深い、慈愛深いお方です。なぜなのでしょうか。

それはイエス様にのみ、まことの人間の救いがあるからです。神様のテーマは、人間がどれほど裕福に健康に過ごすのかにありません。神様のテーマは、人間が救われることです。そのまことの救いはイエスのほかにはないので、Onlyイエスの方に導いていらっしゃいます。

　私たちは、神様の恵みによってそのイエス様を信じて信者となりました。なので今までのような人生のフォーカスから離れて、神様と同じテーマ、救いにフォーカスを合わせるようにしなければなりません。そうすることによって、救いがすべてのスタートになり、完全な勝利の人生へと導かれるようになります。どんなに頑張っても救いがスタートでなければ、それは別ものになってしまいます。

　ということで、信者の人生、信仰生活において、一番大切な、また一番優先になる項目は、救いの確信を持つことです。救いをスタートにするためには、救いが自分のものだという揺らぐことのない確信を持たないといけないのではないでしょうか。そのために救いとは一体何なのか、救いの正体について聖書に基づいて、特に今日は神様に召されましたアブラハムを中心にして考えていきたいと願います。救いは一体何なのでしょうか。

神様がアブラハムを訪ねて来られました。そのときの状況などを考えてみますと、

1.救いとは、神様の無条件のお選びによって得られる、神様の一方的な恵みによって与えられるたまものです。

　それが救いの正体です。神様がアブラハムを訪ねて来られたときのアブラハムの状況、現住所はどうだったのでしょうか。もうすでに取り返しのつかないようにバベル塔の思想が普遍化されていました。「神はいらないよ。神様はいない。人間だけで十分だ」という思想が普通になっていて、アブラハムもそれに当たり前に染まっていて、その結果、偶像崇拝が流行るようになりました。世界中が当たり前に偶像を拝む時代であり、特にその中でもアブラハムは、偶像を作ることによって直接関わっていた家系の中でそれを手伝っていた者なのです。どこを見てもアブラハムに神様が訪ねて来られて神に選ばれるような要素などは1ミリたりとも見当たりません。それがアブラハムの現状でした。アブラハムにあると言えば、滅びる要素、さばかれる要素以外には何もありませんでした。これこそが実は神様を離れてしまった人間の現住所を表わすものです。前にもこの聖書の箇所を皆さんとともに読みましたけれども、人間の現住所はどのようなものなのでしょうか。ローマ3：9-18、パウロは旧約と自分の人生すべてをまとめて、人間とは何なのかを整理してこのように結論付けました。「ユダヤ人もギリシヤ人も、すべての人が罪の下にあると責めたのです」「義人はいない。ひとりもいない。悟りのある人はいない。神を求める人はいない。すべての人が迷い出て、みな、ともに無益な者となった。善を行う人はいない。ひとりもいない。」「彼らののどは、開いた墓であり、彼らはその舌で欺く。」「彼らのくちびるの下には、まむしの毒があり、」「彼らの口は、のろいと苦さで満ちている。」「彼らの足は血を流すのに速く、彼らの道には破壊と悲惨がある。また、彼らは平和の道を知らない。」「彼らの目の前には、神に対する恐れがない」。

ユダヤ人もギリシャ人も人間の外見と全く関係なく、人間の現住所がこのようなものです。これに例外があると皆が言いたいでしょう。特別な人の現状だと言いたいかもしれません。しかしローマ3：23「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず」、エペソ2：1-3、自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、空中の権威を持つ支配者、悪魔、サタンに従って、生まれながら神の御怒りを受けるしかない、そんな者です。神様が人を訪ねて来られたということは、人間の方からは何も条件が見当たらないので、神様の不思議な無条件のお選び以外には方法がないということです。なぜアブラハムを選ばれたのか、私たちはよく分かりません。人間の条件から考えたときには、訳が分かりません。謎中の謎なのです。精一杯、説明しようとすれば、私たちの頭では理解できない神様の不思議な愛のゆえにそのようになりましたと言えますが、でも、なぜアブラハムなのかに対しては永遠に謎なのです。神様の無条件のお選び、それだけに人間の希望があります。それだけが人間の頼りなのです。

　神様はどのように救われる人を選ばれたのでしょうか。エペソ1：4、神は世界の基が置かれる前から人をお選びになったと言われています。私たちの頭でそれが全部理解できるのでしょうか。とんでもありません。ただ救われた人には信じられるだけなのです。神様は生まれる前からではなくて、世界の基が置かれる前から救いのために人を定められ、お選びになられました。ローマ8：29、「なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです」。あらかじめ定められたことが救いに現れるだけなのです。ガラテヤ1：15「生まれたときから私を選び分け、恵みをもって召してくださった方が」と言われています。生まれる前から神様は私たちを救いに定められて、救われる者として選んでいらっしゃったというのが聖書の証言です。

そして、そのように計画なさって選ばれることによって、それをどのように、どういうタイミングで彼らを救おうか、までのプランも先にあらかじめ持っていらっしゃいました。それがエペソ1：11です。「みこころによりご計画のままをみな行う方の目的に従って、私たちはあらかじめこのように定められていたのです」。救いに定められて選ばれた者に対しては、神様がどのようにそれを実行するかまでのプランもあらかじめすべて練っていらっしゃった、これが聖書の証言です。ローマ9：28、「主は、みことばを完全に、しかも敏速に、地上に成し遂げられる」。そのプランがあったので、それを実行なさるわけです。あらかじめ世界の基が置かれる前からプランも練っていらっしゃいました。

　そして、具体的にその選ばれた人々を救いを与えようとして、そのプランを具体的に実行されます。マタイ6：30を見ると、こういうことが書いてあります。「きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくしてくださらないわけがありましょうか」。野の草も神様の御手にあって、すべて支配なさって動かしていらっしゃるのです。同じようにマタイ10：29にも「二羽の雀は一アサリオンで売っているでしょう。しかし、そんな雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません」と書いてあります。動物や鳥一羽でも神様の許可なしでは勝手にできないと、そのような神の主権を持ってすべてを動かすことによって、この救いのプランを具体的に実行なさったと聖書はそのように書いてあります。マタイ11：25-26を見ていても「そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現してくださいました。そうです、父よ。これがみこころにかなったことでした」。そのようにして選ばれた人には、この救いのお話が正しく分かるように具体的に働かれるということが書いてあります。そのようにして神様に選ばれている人々が、救いの祝福に預かるようになります。これが救いの正体です。そこに私たちのどうのこうのは一点たりとも入っていません。これが救いの正体です。どのようなきっかけを通して救いの方に導かれて、また教会に導かれるようになったのか、人それぞれいろいろなストーリーがあるでしょうけれども、救いの本当の正体はそのきっかけではなくて、私たちの理解をはるかに超えている神様の無条件のお選びによって与えられる神様の一方的な恵みによるたまものなのだということを肝に銘じておいていただきたいと願います。

　そして、神様の主権を持ってこのように選ばれた人の人生そのものを動かすことによって、

2.救いとは、神様に選ばれている人々がイエス様をキリストとして、イエス様を救い主として告白させることによって与えられるいのちの祝福です。

選ばれた人は必ず神様が「イエスは私の救い主、イエスはキリストです」と告白するようにさせます。その告白に基づいて、計画通りのいのちの祝福を与えられること、それを救いと言います。今日のアブラハムを見ますと、自分の生まれ故郷カルデヤのウルというところ（そこはさばかれるしかないところ、滅びのところ、罪あるところ、希望のないところ）、そこから出てカナンの地、わたしが指示する約束の地に行きなさいと導かれました。つまり、滅びるしかない罪ある人生、答えのない、希望のない、さまようしかない人生から悔い改めて、そこから抜け出して、イエス・キリストの方に行きなさいと神様は導かれるようになります。ローマ8：30を見ると「神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め」と言われています。神様は選ばれた人々を、その人生を動かすことによって必ずイエス・キリストの方に召されます。イエス・キリストもおっしゃいました。すべて、疲れて、重荷を負っている者は、わたしのところに来なさいと。それからローマ10：14を見ますと「しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう」と書いてあります。選ばれる人にはどのようなきっかけを通してでも、その人にイエスの救いのお話が聞こえてくるようにされます。本を通してでも、伝道者を通してでも、教会の礼拝に参加することによってでも、メディアを通してでも、あらゆる方法を通して、無条件、選ばれた人々に対しては、神様は救いのイエスの福音を聞かせます。そして、それに反応するようになります。そのようにイエス・キリストの福音のお話を聞くところに召されます。イエス・キリストの方に必ず引っ張ってきて召されるようになります。これが救いの正体です。そのときまでのら人間の条件の差によって早く行ける者、遅れる者などはありません。人間が自ら志願してイエスの方に進んで行くということはありえません。神様がその人生を動かして、イエス・キリストの方に引っ張って来られます。そのきっかけは人それぞれです。ときには家庭が崩壊する場合もあります。健康を失う場合もあります。夢が破れるときもあります。人間関係に失望するときもあります。自分自身にがっかりすることもあります。人に裏切られるときもあるでしょう。何がきっかけなのかは人それぞれなのです。しかし、確かなのはそのすべては神様がイエス・キリストへと動かしていらっしゃることなのです。そこでイエス・キリストを救い主キリスト、主として告白するように働かれます。Ⅰコリント12：3「また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません」。私たちはイエス様のお話を聞いて、幸いなことにその通りなのだと思い、アーメンと思い、イエス様を救い主として信じて告白するようになりましたが、それが自分の意志や自分の悟りによるものではなくて、聖霊がその人の中に入って、その人を動かすことによって、その告白をさせていらっしゃったということが聖書の証言です。これが救いの正体です。救いは神様の無条件のお選びにより、イエス・キリストを告白させることによって一方的に与えられる永遠のいのちの祝福なのです。アブラハムは何も知らずにいました。普段から神様のことを少し考えていたという痕跡は１ミリたりとも見当たりません。しかし、神様はなぜか分かりませんけれども、アブラハムを訪ねて来られました。それが記録として残っています。今を生きる私たちが、この聖書を見る私たちが、神様の救いは無条件のお選びなのだねということを正しく分かるために。これが救いの正体です。私たちの何かと全く関係ありません。

　そして、そのアブラハムを召された途端に、アブラハムが何かをしたわけでも、アブラハムが変わったわけでもないのに、その瞬間、無条件であふれんばかりの祝福を与えられました。あなたは祝福の基となる。あなたを祝福する者をわたしも祝福しよう。あなたをのろう者はわたしものろおう。祝福の物差し、祝福の基準になるように。あなたによってすべての民族は祝福される。祝福の完成の主人公という祝福が、神様に召された途端にいっぺんにすべて与えられました。これがイエス・キリストを信じることによって与えられるいのちの祝福なのです。無条件です。神様はこの世を見渡して、あの人は真面目なのだな。だから祝福しよう。あの人は性格的にダメなのだな。あの人は罰せようという神様としてのイメージがあるかもしれませんが、それはとんでもない誤解です。それは人間はいろいろ違うのだよという大前提に立っているからいつもそのように思うでしょう。ヒューマニズムの因果応報の刻印から生まれるものです。しかし、聖書の証言はそれとは正反対なのです。神様がご覧になったときには、人間はすべて滅びに値する条件以外には持ち合わせていない存在なのです。神様の無条件のお選びのほかに希望はありません。それが救いです。イ　イエス・キリストを信じることによって救われるということは正しい表現ですが、正確に言うとイエス・キリスト、神様が信じさせました。人が一番嫌うフレーズがこのようなフレーズです。「神様がすべて一方的になさって、人間はただただいただくしかない者なのだ」ということに人間は一番腹を立てます。それが罪というものです。キリスト教は、そのヒューマニズムとは正反対のものです。だから、誰でも条件と関係なく、イエス・キリストを信じて受け入れた者は、無条件、永遠のいのちの祝福、天にある霊的すべての祝福が途端にその人に与えられます。いつ死んでも天国に迎え入れられるように保証され、天の御国の国籍が与えられます。だから、この世にいる間はそこら中の人とは違う人生、世の光として生きることができる祝福が、イエスを信じる者には誰にでも同じく無条件与えれるものです。信じるか信じないかの問題だけです。これがアブラハムを通して教えらる救いの正体です。

　ですから、救いが何かを正しく理解して黙想することによって、これから何があっても絶対揺れることのない、また譲ってはいけない救いの確信を持つようにしなければなりません。すべての条件から自由になってください。皆さんが救いの確信を持ち、自分は救われた者なのだと言う時に、そこに人間的な条件などは一つも取り上げることはできません。もちろんいろいろな条件の違いはあります。しかし、そのすべての条件から自由になってください。そのすべての条件から自由になるということをOnly信仰と言います。ローマ1：17「義人は信仰によって生きる」。エペソ2：8には、このいのちの救いは、神の恵みのゆえに、信仰によって与えられたもので、神からのプレゼントであって、あなたがたから出たものではない。誰も誇ることができないためにと言われているものなのです。条件と全く関係なく、イエス・キリストによって救いの確信を持つようにしましょう。人間は人間的な条件がみな異なります。性格の優しい人間も、性格の悪い、皆に嫌われる性格の持ち主もいます。才能のある者、才能のない者、それが悩みの種になる場合もあるでしょう。外見が美しい者、見苦しい者、いろいろな外見の条件の違いというものも確かです。国籍も皆それぞれ違います。自分で選んだわけではありませんが肌色も違います。経済の程度もみな異なります。今置かれている環境、状況もみな違います。そのような条件の違いによって何かが違うとついつい思います。そうすると、互いに比較意識を持ち、差別意識に走り、優越感に浮かれたり、劣等感に捕らわれたりします。けれども救いの確信を考えるときに、このようなすべての条件から自由にならないといけません。ただ一つだけ、条件がどうであれ、どんな過去があろうが、イエス様が自分の罪のために十字架にかけられて死なれ、自分を救われたということ信じているのかどうかだけです。悪魔、サタンは救いの確信を持てないようについつい元々私たちが持っている因果応報のヒューマニズムの理論を取り上げて、様々な状況に引っかかるようにして救いの確信を持てないように邪魔する者なのです。騙す者なのです。騙されないようにしましょう。

　そのために、救いは人間の理解をはるかに超えているものなので、私たちの理解に基づかずに、救いの正体を聖書に基づいて、みことばを信じる信仰によって、救いの正体を心から認めていただきましょう。いつも一つだけ、イエス様がこんな自分の罪のために十字架で死なれて自分を救われたということを自分は信じているかどうかです。いろいろな失敗もあるでしょうけれども、これが皆さんの最高の祝福であり、皆さんは人生最高の選択をなさいました。もちろん神様のお選びの結果ですが。この選択を崩すようなミスというものはこれから残りの生涯存在しません。皆さん自分自身がそのような存在だということを忘れないようにしましょう。この一点にフォーカスを絞って、すべての条件から自由になることによって、どのような現実の問題、どのような状況があるにしても、自分は救われた神の子どもだ！からスタートするようにしなければなりません。これは戦いです。これは目に見えない霊との戦いです。もうすでに勝利を収めていらっしゃるイエスの御名による勝利の戦いなのです。しかし、戦わないと騙されます。どのような現実の問題、どのような状況があっても、自分は救われた神の子どもなのだ、自分は幸いな者なのだ、これをスタートにすることによって、何があっても、私はそのいのちの救いの祝福の主人公に間違いない、気持ちがどうであれ、レベルがどうであれ。だから歯を食いしばってでも何もかも全部追い払い、救いの永遠なる完璧な祝福の中に入って、自分は祝福の存在だ、これをスタートにしなければいけません。これが信仰の戦いです。ここが自分の限界や道徳や律法に勝利する奥義でもあります。ここが証人として導かれる入口のようなものなのです。皆さんが証人になるということは、ただの奉仕をするようなことではありません。皆さん個人の人生、現場において暗やみが砕かれて、神の国が臨まれた結果です。暗やみの勢力が崩れて、神の国が臨まれる、そのまことの勝利のスタートは、自分は救われた神の子どもだ！だから、自分は幸いな者なのだ！死の影の谷を歩いていても、誤解されていても、たとえ過ちを犯したとしても、天にある霊的すべての祝福は私のものなのだ！と告白し、だから、その祝福に入って、それを主張することを優先することです。それを祈りと言います。感情はついてくるものなので、約束を握って信仰によって戦わないといけません。救いの確信をスタートに、救いの祝福をスタートに。そのために改めて申し上げましょう。イエス様の他に救いの確信を触ってくるものがあれば、どんなものであれすべてが偽りであり、すべてが悪魔のだましごとなので、理由なくすぐさま追い払いましょう。皆さんは幸いな者です。

（祈り）

恵み深い天の父なる神様。神様の不思議な愛と憐みによって、神様の無条件のお選びによって、私たちがイエス・キリストを信じるように聖霊の働きを与えられることによって、私たちはいのちを与えられ、神の子どもとなり、何があっても天にある霊的すべての祝福、御座の祝福の主人公であることを告白して感謝申し上げます。どんな現実があろうが、どのような状況であろうが、救いの確信、救いの祝福をスタートにする霊的な戦いに勝利できるようにどうかここにいる兄弟姉妹ひとりひとりの心と思い、たましいを主が導いてください。私たちを選ばれ、永遠のいのちの祝福を与えられた無条件の愛の主の御名をほめたたえます。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。